

展示会関連講演「スペインと中南米の子どもの本—この 100 年の変遷と今—」
に対する視聴者からの質問と回答

(質問) 児童書や絵本に関連して、(スペイン語圏では) 英語圏で人気のあるグラフィックノベルや日本のマンガなどがどのように読まれているのか、翻訳されているのかなどの周辺のジャンルの状況について教えてください。

(回答)

私がスペインの書店を訪れるようになった 1990 年代にはすでに、日本のマンガは manga としてスペインの書店に並び、広く読まれていました。ただし、その頃はコミックやマンガは子どもが読むものという意識が今よりも強かったように思います。ここ 10 年ほど、コミック(グラフィックノベル)の分野は活気づいてきて、出版点数が増え、書店のコミックのコーナーは以前より広くなりましたし、コミック専門店も出てきました。パコ・ロカをはじめ、スペインのコミック作家の、多様な大人向けの作品が出てきて、読者の意識が変わり、今は大人の読者も読むジャンルとなっています。英語やフランス語やポルトガル語からの翻訳もいろいろ出ています。

(質問) (スペイン語圏の) 一般の書店の児童書売り場、児童書専門店の有無やその様子について教えてください。

(回答)

一般の書店の児童書売り場の様子は、日本と大差ないと思います。また児童書専門店は、ここ 20 年ほどで増えており、イベントを開催しているところも多くあります。

(質問) スペイン語圏の絵本にしかない魅力や、スペイン語圏の絵本と日本の絵本との違いとはどのようなものでしょうか。

(回答)

講演でお話ししたスペイン語の児童書の特徴が、そのままスペイン語圏の絵本の魅力だと思っています。お近くの図書館で手に入る絵本をご自身の手にとって、ご自分で感じていただければと思います。

(質問) スペイン語圏で出版されている絵本の中で、日本語訳が出ている絵本の割合はどのくらいでしょうか。

(回答)

スペイン語圏の国によっては、年間の児童書刊行点数がわかる国もありますが、絵本に限った数値はなく、また、数値自体がわからない国もありますので、スペイン語圏全体の絵本の数というのがそもそもわからないので、残念ながら具体的な割合は不明です。

ただし、どんなに少なく見積もってもスペイン語圏で年間数百点の絵本が刊行されている一方で、日本では年間に多くても両手で数えられるほどの絵本しか翻訳されていません。つまり、日本語訳の絵本の割合は非常に少ないといえるのではないのでしょうか。

(質問) 歴史事情により出版物に傾向が表れますが、(スペイン語圏では) 絵本などを受け取る子どもたちにも国により違いがあるのでしょうか。

(回答)

それぞれの国によって、素地となっている教育も知識も違うので、スペイン語圏に限らず、背景や事情についての読者の理解の違いは出てくると思います。ただし、海外の作品が読まれるというのは、そういった社会事情の違いにかかわらず、登場人物の考えることや心の動きなどについて、時代や国をこえた共感や理解があるからではないのでしょうか。

つまり、人間の生きざまに関することには、共通の受け止めがあると思います。だからこそ、『罪と罰』や『赤毛のアン』など、海外の作品が長年読み継がれてきたのでしょう。